授業計画（シラバス）

科目名	キャリアプランⅠ	指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験		実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎	演習：	実習：〇	実技：
時間数	32時間	週時間数	2時間
学習到達目標	・就職活動に向けての事前準備（ビジネスマナー、書類作成、報告連絡相談の徹底） ・求職票受理面接 ・コミュニケーション力の向上（入学時→進級時の成長を確かめる）		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	プリント		
授業外学習の方法	課題プリントで自主学習。自宅にて各自で面接練習等。		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	自己紹介、今後の授業の進め方
	2	カレトモの説明	就職支援システム、申請書発行サービスの使い方について説明
	3	ビジネスマナー研修事前指導	新入生対象のビジネスマナー研修に向けての事前指導
	4	ビジネスマナー基礎編	社会人になるとは
	5	ビジネスマナー基礎編	社会人になるとは
	6	ビジネスマナー基礎編	基本動作・言葉遣い
	7	ビジネスマナー基礎編	電話応対
	8	ビジネスマナー基礎編	電話応対
	9	ビジネスマナー基礎編	電子メールのマナー
	10	ビジネスマナー基礎編	ビジネスマナー基礎編の確認テスト
	11	面接対策編	面接の目的
	12	面接対策編	自己分析①
	13	面接対策編	自己分析②
	14	面接対策編	自己PR作成
	15	面接対策編	志望動機作成
	16	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション論Ⅰ		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験			実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：	実習：〇	実技：
時間数	16時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈（理解）して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得 ・コミュニケーション検定初級の合格を目指す			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	プリント			
授業外学習の方法	課題プリントで自主学習。自宅にて各自で面接練習等。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	面接対策編	エントリーシート・履歴書作成
	18	面接対策編	企業研究の仕方を学ぶ
	19	面接対策編	企業訪問
	20	面接対策編	面接練習（個人・集団）※オンライン面接を含む
	21	面接対策編	面接練習（個人・集団）※オンライン面接を含む
	22	面接対策編	面接練習（個人・集団）※オンライン面接を含む
	23	面接対策編	面接練習（個人・集団）※オンライン面接を含む
	24	グループディスカッション	グループディスカッションとは
	25	グループディスカッション	グループディスカッションの実施
	26	グループディスカッション	グループディスカッションの実施
	27	電話応対	企業への電話のかけ方・受け方
	28	ビジネス文書	ビジネス文書の書き方
	29	ビジネス文書	お礼状の書き方
	30	期末試験	期末試験
	31	就職活動スケジュール	就職活動のスケジュールを組む
	32	説明会への参加	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する

授業計画（シラバス）

科目名	一般教養演習	指導担当者名	白鳥　吉洋
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎　演習：〇	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間
学習到達目標	・就職採用試験に向けての準備（一般教養、SPI） ・就職支援サイト等を活用しWeb模擬試験を受験 ・就職に対するモチベーションの向上		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集、iPad、プリント		
授業外学習の方法	テキストの課題の家庭学習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	自己紹介、今後の授業の進め方
	2	就職支援サイトの活用	就職支援サイトの登録、一般常識とSPIの違いについて説明
	3	国語	漢字の読み①音読み
	4	国語	漢字の読み②訓読み
	5	国語	漢字の読み③会社、ビジネス社会でよく使われる用語
	6	社会	都道府県
	7	社会	都道府県庁所在地
	8	社会	都道府県と都道府県庁所在地の確認テスト
	9	数学	式と計算①
	10	数学	式と計算②
	11	数学	速さの基礎
	12	英語	基本単語
	13	英語	時事英語
	14	英語	熟語、英略語
	15	英語	発音、ことわざ
	16	英語	文法

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	一般教養演習		指導担当者名	白鳥　吉洋
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・就職採用試験に向けての準備（一般教養、SPI） ・就職支援サイト等を活用しWeb模擬試験を受験 ・就職に対するモチベーションの向上			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	専門学校生のための就職筆記試験対策問題集、iPad、プリント			
授業外学習の方法	テキストの課題の家庭学習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	数学	旅人算、通過算
	18	数学	流水算
	19	数学	割合の基礎
	20	社会	世界地理①
	21	社会	世界地理②
	22	社会	日本史
	23	社会	世界史
	24	国語	漢字の書き取り①
	25	国語	漢字の書き取り②
	26	国語	同意語・類義語
	27	国語	反対語
	28	国語	四字熟語
	29	数学	図形と角度
	30	期末試験	期末試験
	31	国語・社会・数学・英語	総復習
	32	Web模擬試験	Web模擬試験の実施

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	簿記会計基礎	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	96時間	週時間数	12時間
学習到達目標	テキストの内容を理解し、基礎問題を解けるようになる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	合格テキスト日商簿記3級、合格トレーニング日商簿記3級		
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	簿記の基礎、商品売買、現金預金、小口現金	簿記の5要素、仕訳と転記、商品売買、現金と当座預金、小口現金制度
	2	売上債権	クレジット売掛金、手形取引、電子記録債権債務
	3	その他の取引Ⅰ、Ⅱ	貸付金・借入金、利息、固定資産
	4	その他の取引Ⅲ、帳簿、試算表	仮払金、仮受金、給与、帳簿記入、試算表
	5	決算整理	売上原価、現金過不足、貸倒れ、減価償却、貯蔵品
	6	決算整理、後T/B、精算表、英米式決算	当座借越、経過勘定項目、後T/B、精算表、帳簿の締め切り
	7	FSの作成、株式の発行、配当、税金	BS・PLの作成、資本金、剰余金の配当、法人税・住民税・事業税、消費税
	8	証憑と伝票	証憑、伝票
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	簿記会計検定対策		指導担当者名	和泉　一彰
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	96時間	週時間数	12時間	
学習到達目標	問題演習や模擬試験問題を通して、日商簿記3級合格レベルへ点数の底上げをする。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	合格テキスト日商簿記3級、合格トレーニング日商簿記3級、模擬試験問題			
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	10	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	11	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	12	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	13	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	14	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	15	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	16	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ビジネス基礎Ⅰ		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：〇	演習：	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・仕事に大切な8つの意識（顧客・品質・納期・時間・目標・協調・改善・コスト）を身につける ・職場の基本的なマナーや、仕事を進めるコミュニケーションについて基本を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	ビジネスとコミュニケーションの基本	・キャリアと仕事へのアプローチ ・仕事の基本となる8つの意識
	2	ビジネスとコミュニケーションの基本	・コミュニケーションとビジネスマナーの基本 ・指示の受け方と報告、連絡・相談
	3	ビジネスとコミュニケーションの基本	・話し方と聞き方のポイント ・来客応対と訪問の基本マナー
	4	ビジネスとコミュニケーションの基本	・会社関係でのつき合い ・練習問題
	5	仕事の実践とビジネスツール	・仕事への取り組み方 ・ビジネス文書の基本
	6	仕事の実践とビジネスツール	・ビジネス文書の基本
	7	仕事の実践とビジネスツール	・電話応対
	8	仕事の実践とビジネスツール	・電話応対
	9	仕事の実践とビジネスツール	・統計・データの読み方、まとめ方
	10	仕事の実践とビジネスツール	・統計・データの読み方、まとめ方
	11	仕事の実践とビジネスツール	・情報収集とメディアの活用 ・会社を取り巻く環境と経済の基本
	12	仕事の実践とビジネスツール	・練習問題
	13	模擬問題	解答・解説
	14	模擬問題	解答・解説
	15	模擬問題	解答・解説
	16	期末テスト	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門概論ＩＡ	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	日商簿記2級の合格をめざす。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	簿記一巡、財務諸表、商品売買	BS、PL、商品売買の記帳方法、返品・割戻
	18	現金預金、債権債務	現金の種類、当座預金、クレジット売掛金、手形、電子記録債権債務
	19	有価証券、有形固定資産	有価証券の種類と期末評価、減価償却、改良・修繕、圧縮記帳
	20	リース、無形固定資産と研究開発費	ファイナンスリース、オペレーティングリース、無形固定資産、研究開発費
	21	引当金、外貨換算会計	貸倒引当金、その他の引当金、外貨建取引、為替予約
	22	税金、税効果会計	法人税等、消費税、一時差異と永久差異、将来減算一時差異、全部純資産直入法
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27	連結会計	成果連結、株主資本等変動計算書
	28	製造業会計、問題演習	工的商業簿記、トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門概論ＩＢ	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	48時間	週時間数	3時間
学習到達目標	日商簿記2級の合格をめざす。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	簿記一巡、財務諸表、商品売買	BS、PL、商品売買の記帳方法、返品・割戻
	18	現金預金、債権債務	現金の種類、当座預金、クレジット売掛金、手形、電子記録債権債務
	19	有価証券、有形固定資産	有価証券の種類と期末評価、減価償却、改良・修繕、圧縮記帳
	20	リース、無形固定資産と研究開発費	ファイナンスリース、オペレーティングリース、無形固定資産、研究開発費
	21	引当金、外貨換算会計	貸倒引当金、その他の引当金、外貨建取引、為替予約
	22	税金、税効果会計	法人税等、消費税、一時差異と永久差異、将来減算一時差異、全部純資産直入法
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27	連結会計	成果連結、株主資本等変動計算書
	28	製造業会計、問題演習	工的商業簿記、トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門実務ＩＡ		指導担当者名	高橋　大祐
実務経験			実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	117時間	週時間数	9時間	
学習到達目標	工業簿記の基礎知識の習得と問題演習による計算力の強化。その後答練や過去問演習による日商簿記2級合格点到達。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	日商簿記2級工業簿記合格テキスト、同トレーニング（TAC出版）			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	材料費、労務費、経費会計	工業簿記の基礎となる材料労務費経費会計
	18	材料費、労務費、経費会計	工業簿記の基礎となる材料労務費経費会計
	19	個別原価計算	個別原価計算における製造間接費の処理方法
	20	部門別個別原価計算	部門別の場合の手続き
	21	総合原価計算	月末仕掛品原価の計算と加工費の計算
	22	総合原価計算	仕損、減損がある場合の計算方法
	23	総合原価計算	工程別総合原価計算と組別・等級別総合原価計算の手続き
	24	標準原価計算	パーシャルプランとシングルプランの違い、直接材料・直接労務費・製造間接費の差異分析
	25	直接原価計算、本社工場会計	直接原価計算の特長と固定費調整、CVP分析、高低点法、本社工場会計の概要
	26	直接原価計算、本社工場会計	直接原価計算の特長と固定費調整、CVP分析、高低点法、本社工場会計の概要
	27	答練、過去問	演習と解説、復習
	28	答練、過去問	演習と解説、復習
	29	答練、過去問	演習と解説、復習
	30	答練、過去問	演習と解説、復習
	31	答練、過去問	演習と解説、復習
	32	答練、過去問	演習と解説、復習

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用する

授業計画（シラバス）

科目名	専門実務ＩＢ	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	39時間	週時間数	3時間
学習到達目標	日商簿記2級の合格をめざす。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題		
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27	連結会計	成果連結、株主資本等変動計算書
	28	製造業会計、問題演習	工的商業簿記、トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	29	問題演習	トレーニング問題をつかった苦手論点の克服
	30	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	31	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習
	32	模擬試験問題、解説	本番を意識した問題演習

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門演習ＩＡ		指導担当者名	和泉　一彰
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：	演習：	実習：	実技：
時間数	30時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	日商簿記2級の合格をめざす。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び出席状況、授業態度などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	合格テキスト日商簿記2級、合格トレーニング日商簿記2級、模擬試験問題			
授業外学習の方法	授業内容の範囲で問題集を使った問題演習			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	簿記一巡、財務諸表、商品売買	BS、PL、商品売買の記帳方法、返品・割戻
	18	現金預金、債権債務	現金の種類、当座預金、クレジット売掛金、手形、電子記録債権債務
	19	有価証券、有形固定資産	有価証券の種類と期末評価、減価償却、改良・修繕、圧縮記帳
	20	リース、無形固定資産と研究開発費	ファイナンスリース、オペレーティングリース、無形固定資産、研究開発費
	21	引当金、外貨換算会計	貸倒引当金、その他の引当金、外貨建取引、為替予約
	22	税金、税効果会計	法人税等、消費税、一時差異と永久差異、将来減算一時差異、全部純資産直入法
	23	株式の発行、配当と処分	純資産、株主資本変動計算書
	24	決算手続、収益の認識基準	後TB、精算表、サービス業、収益認識
	25	本支店会計、合併と事業譲渡	本支店会計、合併、事業譲渡
	26	連結会計	資本連結
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門演習ＩＢ	指導担当者名	佐藤　祐汰
実務経験	学習塾で4年間英語講師として担当	実務経験：	有

開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース

授業方法	講義：○	演習：◎	実習：	実技：

時間数	44時間	週時間数	2時間

学習到達目標	・英文法基礎を理解し運用できる。 ・ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など。直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
使用教材	中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。（Gakken） その他教員準備プリント
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	自己紹介・授業説明
	18	be動詞、一般動詞、品詞、否定文	文法確認、使用練習、自己表現演習
	19	疑問文、疑問詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	20	複数形、命令文、代名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	21	時制①	文法確認、使用練習、自己表現演習
	22	時制②	文法確認、使用練習、自己表現演習
	23	助動詞・have to、不定詞・動名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	24	接続詞、いろいろな文型	文法確認、使用練習、自己表現演習
	25	比較、受け身	文法確認、使用練習、自己表現演習
	26	現在完了、不定詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	27	後置修飾、関係代名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	28	関節疑問・仮定法	文法確認、使用練習、自己表現演習
	29	運用練習①	読解・自己表現演習
	30	運用練習②	読解・自己表現演習
	31	期末試験	
	32	総まとめ	復習

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	Word		指導担当者名	小針　代里子
実務経験	パソコン教室で22年の指導経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：	演習：◎	実習：〇	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	MOS Word 365&2021　試験必要な実力を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 期末成績評価は、A（80点~100点）（優）、B（70~79点）（良）、C（60点~69点）（可）、D（0点~59点）（不可）の4段階評価とする。 A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Word 365&2021 対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	文書の管理	文書内を移動する、文書の書式を設定する、文書を保存する、共有する、文書を検査する
	2	文字、段落、セクションの挿入と書式設定	文字列や段落を挿入する、文字列や段落の書式を設定する、文書にセクションを作成する、設定する
	3	表やリストの管理	表を作成する、表を変更する、リストを作成する、変更する
	4		
	5	参考資料の作成と管理	参照のための要素を作成する、管理する、参照のための一覧を作成する、管理する
	6		
	7	グラフィック要素の挿入と書式設定	図やテキストボックスを挿入する、図やテキストボックスを書式設定する、グラフィック要素にテキストを追加する、グラフィック要素を変更する
	8		
	9	文書の共同作業の管理	コメントを追加する、管理する、変更履歴を管理する
	10		
	11	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	12	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	13	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	14	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	15	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	16	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	Excel		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：	演習：◎	実習：〇	実技：
時間数	76時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	MOS Excel 365&2021　試験に必要な実力を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び毎時間の小テスト、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数化し、100点満点で評価する。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 期末成績評価は、A（80点~100点）（優）、B（70~79点）（良）、C（60点~69点）（可）、D（0点~59点）（不可）の4段階評価とする。 A,B,Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Excel 365&2021 対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	ワークシートやブックの管理	ブック内を移動する、ワークシートやブックの書式を設定する、オプションと表示をカスタマイズする、共同作業のためにコンテンツを設定する、ブックにデータをインポートする
	18		
	19	セルやセル範囲のデータの管理	シートのデータを操作する、セルやセル範囲の書式を設定する、名前付き範囲を定義する、参照する、データを視覚的にまとめる
	20		
	21	テーブルとテーブルのデータの管理	テーブルを作成する、書式設定する、テーブルを変更する、テーブルのデータをフィルターする、並べ替える
	22		
	23	数式や関数を使用した演算の実行	参照を追加する、データを計算する、加工する、文字列を変更する、書式設定する
	24		
	25	グラフの管理	グラフを変更する、グラフを書式設定する
	26		
	27	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	28	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	29	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	30	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	31	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	32	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	PowerPoint		指導担当者名	小針　代里子
実務経験	パソコン教室で22年の指導経験あり		実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：	演習：◎	実習：〇	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　PowerPoint 365&2021 対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	7	プレゼンテーションの管理	プレゼンテーションの表示やオプションを変更する、印刷設定を行う
			スライドショーを設定する、実行する、配布資料、ノートのマスターを変更する
	8	スライドの管理	スライドを挿入する、変更をする
			スライドを並べ替える、グループ化する
	9	テキスト、図形、画像の挿入と書式設定	テキストを書式設定する、リンクを挿入する、図を挿入する、書式設定する
			グラフィックを挿入する、書式設定する、図形を並べ替える、グループ化する
	10	表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、 メディアの挿入	管理する表を挿入する、書式設定する、グラフを挿入する、変更する
			SmartArtを挿入する、書式設定する、3Dモデルを挿入する、変更する
	11	画面切り替えやアニメーションの適用	画面切り替えを適用する、設定する、コンテンツにアニメーションを設定する
			アニメーションと画面切り替えのタイミングを設定する
	12	プレゼンテーションの管理	プレゼンテーションの管理、スライドの管理
			テキスト、図形、画像の挿入と書式設定
	13		表、グラフ、SmartArt、3Dモデル、メディアの挿入
			画面切り替えやアニメーションの適用
	14	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
		模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	15	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
		模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
	16	模擬試験	第1回～第5回模擬試験、解答・解説
		期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プロジェクトデザインⅠ		指導担当者名	小原　美和
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：○	演習：◎	実習：○	実技：
時間数	40時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、最終到達点を目指す。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	企画事前資料（			
授業外学習の方法	プレゼンテーション技法の復習など			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3	企画の全体説明・グループ作り	グループ方針の協議
	4	テーマの選定	グループごとにテーマを決定
	5	企画の計画書づくり	グループごとに企画を練る
	6	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	7	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	8	中間検討	プレゼン後、進捗状況や改善点について話し合う
	9	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	10	発表会①	企画発表
	11	テーマの選定・作業計画	テーマを決定し、グループごとに企画を練る
	12	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	13	中間検討	プレゼン後、進捗状況や改善点について話し合う
	14	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	15	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	16	発表会②	企画発表

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プロジェクトデザインⅠ	指導担当者名	小原　美和
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科1年 ファイナンスコース
授業方法	講義：○　演習：◎	実習：○	実技：
時間数	40時間	週時間数	2時間
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、最終到達点を目指す。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	企画事前資料		
授業外学習の方法	プレゼンテーション技法の復習など		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	18	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	19	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	20	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	21	最終発表会	企画発表
	22	企画・発表の振り返り	これまでの活動を振り返る
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：　　実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	・キャリア（自分の生き方や働き方）について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用する		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	就職活動の確認	提出書類、履歴書等の書き方他
	2	就職活動の確認	自己PR・志望理由の確認
	3	言葉遣い	間違いやすい敬語の復習
	4	ビジネスメールの作り方	ビジネスメールの定型 ビジネスメールの注意点
	5	電話応対	正しい電話の受け方、かけ方
	6	キャリアデザインとは	自分を知る・他人を知る・社会を知
	7	コミュニケーションするとは	正確に伝えること ホウレンソウの大切さ
	8	自分を発見しよう	マインドマップの作成
	9	自分のPOPを作ろう	自分の特徴を知ろう
	10	自分をアピールしよう	自分を上手にアピールするには
	11	コンビニの弁当から職業を考える	職業と業種
	12	憧れの人に学ぶ	人間の才能とは
	13	未来予想図を作る	逆算思考で考える
	14	未来予想図を作る	MustとWhatを整理しよう
	15	金銭感覚について	未来予想図をもとにお金について考える
	16	生涯にいくら稼げるか	年収・年金から収入を考える

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：　　実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	・キャリア（自分の生き方や働き方）について考え、計画することを学ぶ ・授業は、自分を知る・他人を知る・社会を知るの3つをキーワードにして展開する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	指導担当者作成のプリントを使用する		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	生涯にいくら稼げるか	老後にいくら必要か
	18	社会の流れを知ろう	経済成長率から社会をみる
	19	社会の流れを知ろう	日本の人口ピラミッドから社会をみる
	20	今、求められている人材とは	企業と学生の認識のギャップ
	21	社会で求められている人材になるには	自分の能力について 自分をバージョンアップさせる方法
	22	自分を売り込もう	自分を様々な視点で見てみる
	23	自分を売り込もう	言葉はマジック
	24	あなたにとってのキャリアデザインとは	コミュニケーション力の大切さ
	25	あなたにとってのキャリアデザインとは	準備する心
	26	あなたにとってのキャリアデザインとは	発想法・思考法を上手に活用しよう
	27	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる
	28	まとめ	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマでまとめる
	29	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表
	30	発表会	「あなたにとってのキャリアデザインとは」というテーマで発表
	31	期末試験	
	32	講演会	講演を聞く

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈（理解）して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック＆問題集			
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	コミュニケーションとは	
	2	聞く力について①	目的に即して聴く
	3	聞く力について②	傾聴・質問する
	4	話す力について①	目的を意識する
	5	話す力について②	話を組み立てる
	6	話す力について③	言葉を選び抜く
	7	話す力について④	表現・伝達する
	8	コミュニケーション実践①	来客対応
	9	コミュニケーション実践②	電話応対
	10	コミュニケーション実践③	アポイント・訪問・挨拶
	11	コミュニケーション実践④	情報共有の重要性
	12	コミュニケーション実践⑤	チーム・コミュニケーション
	13	コミュニケーション実践応用①	接客・営業
	14	コミュニケーション実践応用②	クレーム対応
	15	コミュニケーション実践応用③	会議・取材・ヒアリング
	16	コミュニケーション実践応用④	面接

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション論Ⅱ		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間	
学習到達目標	・情報を的確に評価・判断して取捨選択していく「状況判断力」の取得 ・情報を自分なりに解釈（理解）して意見に反映させていく「情報解釈力」の取得 ・解釈したものを他者に対して的確に発信していく「自己表現力」の取得			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	コミュニケーション検定公式ガイドブック＆問題集			
授業外学習の方法	日常生活においてコミュニケーション論で学んだことを活用する			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	ロールプレイング①	来客対応
	18	ロールプレイング②	電話応対
	19	ロールプレイング③	アポイント・訪問・挨拶
	20	ロールプレイング④	情報共有の重要性
	21	ロールプレイング⑤	チーム・コミュニケーション
	22	ロールプレイング⑥	接客・営業
	23	ロールプレイング⑦	クレーム対応
	24	ロールプレイング⑧	会議・取材・ヒアリング
	25	就職対策	面接練習
	26	就職対策	面接練習
	27	就職対策	面接練習
	28	就職対策	面接練習
	29	期末試験	
	30	答案練習①	
	31	答案練習②	
	32	答案練習③	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	卒業研究		指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンススコース	
授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：
時間数	42時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	専門学校2年間の学びの集大成として、各自学科の授業内容からテーマを見つけて研究発表をする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	指導担当者作成のプリント			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	テーマの選定	各自研究のテーマについて決定する
	18	研究の進め方	選択したテーマに沿って研究方法等を検討し、研究目的、 研究方法を各自プレゼンテーションする
	19	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める （関係資料等の教員指導などを含む）
	20	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める （関係資料等の教員指導などを含む）
	21	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める （関係資料等の教員指導などを含む）
	22	各自研究Ⅰ	研究計画を作成し、研究を進める （関係資料等の教員指導などを含む）
	23	中間検討Ⅰ	卒業研究の進捗状況、今後の課題などをプレゼンテーションし、 論議する
	24	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	25	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	26	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	27	各自研究Ⅱ	卒業研究とりまとめを念頭にした計画を作成し、研究を進める
	28	中間検討Ⅱ	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で 検討しあう
	29	中間検討Ⅱ	卒業研究のとりまとめにむけて見直しを図り、グループ内で 検討しあう
	30	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など
	31	卒業研究の取りまとめ	卒業研究作成指導、プレゼンテーション指導、報告要旨集作成など
	32	報告会	研究成果の発表

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ファイナンシャルプランニングA	指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴	実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンススコース
授業方法	講義：○　演習：○	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	6時間
学習到達目標	・7月下旬に実施予定の「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	みんなが欲しかったFPの教科書・問題集　（TAC出版）		
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	ライフプランニングと資金計画	ライフデザインに応じたライフプランを考える
	2	ライフプランニングと資金計画	社会保険・公的年金について
	3		
	4		
	5	リスクマネジメント	生命保険について
	6	リスクマネジメント	損害保険について
	7		
	8		
	9	金融資産運用	主な経済、景気に関する指数や金融市場について
	10	金融資産運用	金融商品の知識を身につける
	11		
	12		
	13	実技試験用ポイントの整理	資金計画・保険・金融商品の範囲から要点を整理
	14	期末試験	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ファイナンシャルプランニングB	指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴	実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンススコース
授業方法	講義：○　演習：○	実習：	実技：
時間数	84時間	週時間数	6時間
学習到達目標	・7月下旬に実施予定の「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	みんなが欲しかったFPの教科書・問題集　（TAC出版）		
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	タックスプランニング	所得税について基礎から学ぶ
	2	タックスプランニング	税額の計算の方法と税額控除について
	3		
	4		
	5	不動産	不動産に関する知識を基本から学ぶ
	6	不動産	不動産の税金・有効活用について
	7		
	8		
	9	相続・事業継承	相続について基本から学ぶ
	10	相続・事業継承	財産の評価について
	11		
	12		
	13	実技試験用ポイントの整理	所得税・不動産・相続の範囲から要点を整理
	14	期末試験	
	15		
	16		

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ファイナンシャルプランニング対策	指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴	実務経験：	有
開講時期	前期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンススコース
授業方法	講義：〇　演習：〇	実習：	実技：
時間数	36時間	週時間数	36時間
学習到達目標	・7月下旬に実施予定の「ファイナンシャルプランニング技能検定3級」の合格を目指す ・受験に向けて「家計」に関わる金融・税金・不動産・住宅ローン・保険の基本的な知識を習得する ・経済面で賢く生き抜くためライフイベントに向けた資産運用などの知識を習得し、自らの生活に活かす		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	みんなが欲しかったFPの教科書・問題集　（TAC出版）		
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	対策	答練（第1,2回）	解答・解説
		答練（第3,4回）	解答・解説
		答練（第5,6回）	解答・解説
		答練（第7,8回）	解答・解説
		答練（第9,10回）	解答・解説

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ビジネス基礎ⅡＡ	指導担当者名	遠藤　紀子
実務経験		実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：○　演習：○	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間
学習到達目標	・社会人として必要な一般知識やビジネスマナーを習得し、適切な言動や立ち居振る舞いができる ・「わかる」から「できる」「やっている」状態へ変わることを重視、日常生活で実践できることを目指す		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	秘書検定3級クリアテスト		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題として、「秘書学ナビ」テーマごとに、気づき・印象に残ったこと・今後の行動目標などをまとめ提出をする 確認テスト、模擬試験のための学習		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	・秘書にもとめられる能力 ・求められる能力と身だしなみ	・秘書としての心構え　・社会人として求められること
	18	・秘書の機能　・上司と秘書の関係	・秘書の業務　・身だしなみ、挨拶の基本
	19	・接遇のマナー	・接遇とは　・来客応対　・名刺の取り扱い
	20	・敬語と接遇用語	・尊敬語　・謙譲語　・丁寧語　・接遇用語
	21	・電話応対	・ビジネス電話のかけ方、受け方、取次ぎ方
	22	・報告、連絡、相談　・指示命令の受け方	・報告、連絡、相談の意味、ポイント　・指示命令の受け方
	23	・コミュニケーションスキル～聞き方	・聞くスキル　・ラポールスキル
	24	・コミュニケーションスキル～伝え方	・3部構成で伝えるスキル　・スピーチのポイント
	25	・コミュニケーションスキル～会話スキル	・会話スキルをアップする
	26	・ホスピタリティ	・ホスピタリティとは　・ホスピタリティの実践
	27	・ビジネスメールのマナー	・ビジネスメールのマナー　・ビジネスメールの書き方
	28	・文書の作成、文書の取り扱い	・社内文書、社外文書　・文書の受信、発信業務　・郵便の知識
	29	・オフィス機器と事務用品	・主なオフィス機器と事務用品
	30	・ファイリング、資料の整理　・環境整備	・ファイリングの目的と種類　・資料の管理　・オフィスの清掃と環境整備
	31	・交際の業務	・慶事に関する知識　・弔事に関する知識
	32	・総合復習　期末テスト	・総合練習　・期末テスト

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ビジネス基礎ⅡＢ	指導担当者名	本田　昌秀
実務経験	会計事務所にて9年間勤務	実務経験：	有

開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース

授業方法	講義：	演習：	実習：〇	実技：

時間数	30時間	週時間数	30時間

学習到達目標	会計ソフトの操作方法・コンピュータ会計の知識の学習を通して、 正確な経理処理・決算処理の手順　及び　経営分析の手段を習得する。 習得した知識・技術を以って、コンピュータ会計能力検定2級合格を目指す。
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、１００点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、Ａ（80点～100点）（優）、Ｂ（70点～79点）（良）、Ｃ（60点～69点）（可）、Ｄ（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
使用教材	弥生会計（会計ソフト）、コンピュータ会計応用テキスト、コンピュータ会計応用問題集、 コンピュータ会計検定過去問題、講師作成資料
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	29	会計ソフト入力演習（第2問対策）	問題集を使用した日常取引仕訳入力の練習
		会計情報の活用（第3問対策）	損益分岐点分析、試算（シミュレーション）の操作
		コンピュータ会計の知識（第1問対策）	コンピュータ会計と簿記・会計の知識、基幹業務システムの概要
		資金繰り表の作成（第4問対策）	資金繰り表の作成
		検定対策	答案練習・解答開設
		期末試験	期末試験

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する

授業計画（シラバス）

科目名	専門実務ⅡＡ	指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴	実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎　演習：〇	実習：	実技：
時間数	70時間	週時間数	4時間
学習到達目標	・法令・規則の理解と適用：証券業務に関する主要な法令・規則を理解し、実務に即した判断ができる ・金融商品の知識習得：各商品の取引方法や顧客への説明責任を理解し、適切な販売ができる知識を習得する ・金融経済の基礎理解：金融経済に関する基本的な知識を理解し、時事的な経済ニュースにも対応できる基礎力を養う		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	スッキリわかる証券外務員二種		
授業外学習の方法	授業内容の復習 課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	オリエンテーション 金融商品取引法	証券外務員の役割と試験概要／金融商品取引法①
	16	金融商品取引法	金融商品取引法②

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門実務ⅡＡ		指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	70時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・法令・規則の理解と適用：証券業務に関する主要な法令・規則を理解し、実務に即した判断ができる ・金融商品の知識習得：各商品の取引方法や顧客への説明責任を理解し、適切な販売ができる知識を習得する ・金融経済の基礎理解：金融経済に関する基本的な知識を理解し、時事的な経済ニュースにも対応できる基礎力を養う			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	スッキリわかる証券外務員二種			
授業外学習の方法	授業内容の復習 課題が出された場合は自宅にて実施			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	協会定款	協会定款・諸規則①
	18	取引所定款	協会定款・諸規則②／取引所定款・諸規則
	19	株式業務①	株式の種類・取引の仕組み
	20	株式業務②	売買制度・決済・信用取引
	21	債券業務	債券の種類・利回り計算
	22	投資信託業務	仕組み・種類・販売
	23	付随業務・関連法規	マネロン・個人情報保護など
	24	証券税制 金融経済常識①	経済指標・金融政策
	25	金融経済常識②	為替・金利・景気循環
	26	証券市場の仕組み	証券市場の仕組みと参加者／金融商品取引業者の業務
	27	計算演習	計算問題対策①（債券利回り・株式配当利回りなど）
	28	計算演習	計算問題対策②（投資信託・手数料・税金）
	29	答案練習①	解答解説
	30	答案練習②	解答解説
	31	答案練習③	解答解説
	32	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門実務ⅡB		指導担当者名	小原　美和
実務経験	銀行において窓口業務、および個人渉外に12年間従事した経歴		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・現代社会において必要不可欠な金融知識と判断力を身につける ・日常生活における幅広い金融テーマについて学び、健全な経済的意思決定ができる力を養う ・変化する金融環境に対応するための基礎的な知識と情報リテラシーも身につけて金融的な土台を築く			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	はじめての金融リテラシー			
授業外学習の方法	授業内容の復習 課題が出された場合は自宅にて実施			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	金融リテラシーとは何か
	18	家計管理の基本	家計の収支と予算
	19	貯蓄と目標設定	ライフプランと資金計画
	20	金融機関	銀行・金融機関の役割とサービス
	21	キャッシュレス社会	決済手段（クレカ・電子マネー・QR）
	22	借金と信用	ローン・クレジット・信用スコア
	23	保険の基礎	生命保険・損害保険・公的保険
	24	税金のしくみと社会保障	所得税・年金・医療保険
	25	投資の基本①	リスクとリターン・複利
	26	投資の基本②	株式・債券・投資信託
	27	金融詐欺とトラブル対策	詐欺事例・消費者保護
	28	金融とテクノロジー	フィンテック・AI・仮想通貨
	29	ライフイベントとお金	進学・就職・結婚・老後
	30	金融情報の読み方	ニュース・広告・商品比較
	31	要点整理	まとめ演習
	32	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用する

授業計画（シラバス）

科目名	専門演習ⅡＡ	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：　演習：　実習：〇		実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間
学習到達目標	・景気、物価、金利、為替など、経済の基本用語とその意味を理解する ・主要な経済指標の意味を理解し、グラフや表から情報を読み取るスキルを身につける ・国内外の経済動向や社会の変化に関心を持ち、自ら情報を調べ、発表する姿勢を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	経済の仕組み～学び直しの教科書～		
授業外学習の方法	授業内容の復習 課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	オリエンテーション	経済動向とは何か
	2	景気ってなに？	好況・不況・景気循環
	3	GDPとは？	国内総生産の意味と見方
	4	物価の動き	インフレ・デフレ
	5	金利のしくみ	金利のしくみと経済への影響
	6	為替レート	為替レートと円高・円安
	7	金融政策	日本銀行と金融政策（利上げ・利下げ）
	8	財政政策	財政政策と国の予算（税金・公共事業）
	9	家計と経済	消費・貯蓄・ローン
	10	企業と経済	企業の売上・利益・雇用
	11	労働市場	雇用統計（失業率・求人倍率）
	12	消費者物価指数（CPI）	消費者物価指数（CPI）を読んでみよう
	13	経済ニュースの読み方①	新聞・ネットニュース
	14	経済ニュースの読み方②	グラフ・図表
	15	世界経済動向	世界経済の動き（アメリカ・中国・EU）
	16	国際貿易	国際貿易と日本経済（輸出入・関税）

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門演習ⅡＡ	指導担当者名	和泉　一彰
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義： 演習：	実習：〇	実技：
時間数	32時間	週時間数	1時間
学習到達目標	・景気、物価、金利、為替など、経済の基本用語とその意味を理解する ・主要な経済指標の意味を理解し、グラフや表から情報を読み取るスキルを身につける ・国内外の経済動向や社会の変化に関心を持ち、自ら情報を調べ、発表する姿勢を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	経済の仕組み～学び直しの教科書～		
授業外学習の方法	授業内容の復習 課題が出された場合は自宅にて実施		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	物価	原材料価格と物価（原油・小麦など）
	18	流通業界の動き	流通業と経済動向（売上・仕入れ・価格）
	19	小売業界の動き	小売業の景気感（景況感・消費動向）
	20	観光業界の動き	観光と地域経済（インバウンド・地方創生）
	21	経済と環境	脱炭素・再エネ・ESG
	22	経済とテクノロジー	AI・自動化
	23	経済と災害・パンデミック	自然災害・パンデミック
	24	経済と政治	選挙・政策・景気
	25	経済と若者	就職・賃金・物価
	26	経済とSNS・情報リテラシー	SNS・情報リテラシー
	27	経済統計の見方	内閣府・日銀など
	28	最近の経済ニュースまとめ①	事例のニュースから経済を読み解く
	29	自分で経済ニュースを調べてみよう	自ら選択したニュースを調べ、発表につなげる
	30	経済ニュース発表①	
	31	経済ニュース発表②	
	32	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	専門演習ⅡＢ		指導担当者名	和泉　一彰
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：	実技：
時間数	48時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	・仕訳や帳簿の知識を活かし、財務諸表の「読み方」だけでなく「分析」のスキルも身に付ける ・グループごとの財務分析発表（アウトプット）を通じて理解を深める ・実際の企業の財務諸表を読み取り、第三者に対してわかりやすく説明・報告できるスキルを身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	世界一わかりやすい財務諸表の授業			
授業外学習の方法	課題が出された場合は自宅にて実施			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	オリエンテーション	財務諸表とは何か（目的・種類）
	18	貸借対照表（B/S）	貸借対照表（B/S）の構造と読み方
	19	損益計算書（P/L）	損益計算書（P/L）の構造と読み方
	20	キャッシュ・フロー計算書（C/F）	キャッシュ・フロー計算書（C/F）の基礎
	21	財務三表の全体像	財務三表のつながり
	22	収益性分析①	売上高総利益率・営業利益率など
	23	収益性分析②	ROA・ROEの考え方
	24	安全性分析	自己資本比率・流動比率など
	25	効率性分析	総資産回転率・棚卸資産回転率など
	26	成長性分析	売上高成長率・利益成長率など
	27	財務分析の総合演習①	実在企業の財務諸表を読み取る
	28	財務分析の総合演習②	分析結果のまとめ方
	29	事例研究	財務諸表分析と経営判断
	30	財務分析発表①	グループ発表
	31	財務分析発表②	グループ発表
	32	総まとめ	振り返り

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用する

授業計画（シラバス）

科目名	所得税実務演習	指導担当者名	大坂　友子
実務経験		実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：◎　演習：○	実習：	実技：
時間数	50時間	週時間数	2時間
学習到達目標	・所得税法について基本的な考え方を理解する。 ・源泉徴収や確定申告の基本的な考え方を理解し、実務において確定申告書等を作成できるようにする。 ・全経が主催する所得税法能力検定試験3級の合格を目指す。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	所得税法テキスト・所得税法直前模試3級（全8回）		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	所得税の概要	所得税の基礎知識
	18	所得の内容とその計算方法Ⅰ	利子所得・配当所得
	19	所得の内容とその計算方法Ⅱ	不動産所得・事業所得
	20	所得の内容とその計算方法Ⅲ	給与所得・退職所得
	21	所得の内容とその計算方法Ⅳ	山林所得・譲渡所得
	22	所得の内容とその計算方法Ⅴ	一時所得・雑所得
	23	課税標準	所得の金額の総合・損益通算
	24	所得控除と課税総所得金額	所得控除の意義と種類
	25	所得税の計算	算出税額の計算・所得税の税率・税額控除・確定申告による納付税額の計算
	26	所得税の申告・納付等の手続	確定申告・納付・還付・修正申告と更生の請求
	27	復興特別所得税	納税義務者・税額計算・確定申告
	28	問題演習①	全経所得税法3級の模擬問題①
	29		
	30	問題演習②	全経所得税法3級の模擬問題②
	31	問題演習③	全経所得税法3級の模擬問題③
	32	問題演習④	全経所得税法3級の模擬問題④

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない

対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用する

授業計画（シラバス）

科目名	マーケティング	指導担当者名	石山　蓮
実務経験	広告制作・観光におけるマーケティング戦略	実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：〇	演習：	実習：〇	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	マーケティングや消費者行動を学ぶことで、ビジネスユースにあったモノの考え方、捉え方、 お客様の行動に関して、仮説を立て活用できるようにする。 仲間と意見を出し合い、まとめて自分なりにプレゼンテーションできるようにする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	イントロダクション	学習の目的を考えよう！ マーケティングの基礎を体験しよう！
	2	マーケティング基礎	マーケティングを学ぶ必要性は？ マーケティングの全体像を理解しよう
	3	マーケティング基礎	STPについて理解しよう！ STPの事例からマーケティングを考える
	4	マーケティング基礎	グループワーク　仮想サービスのアイディアを考えよう！
	5	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　アイディアを整理して方向性を決める
	6	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　競合分析
	7	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　3C分析
	8	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　セグメンテーション
	9	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　ターゲティング
	10	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　ポジショニング
	11	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　マーケティングミックス
	12	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　ペルソナ設定
	13	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　カスタマージャーニー
	14	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　まとめ
	15	マーケティング戦略・プランニング	グループワーク　まとめ
	16	マーケティング戦略・プランニング	プレゼンテーション

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	マーケティング	指導担当者名	石山　蓮
実務経験	広告制作・観光におけるマーケティング戦略	実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科 2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：〇　演習：	実習：〇	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間
学習到達目標	マーケティングや消費者行動を学ぶことで、ビジネスユースにあったモノの考え方、捉え方、 お客様の行動に関して、仮説を立て活用できるようにする。 仲間と意見を出し合い、まとめて自分なりにプレゼンテーションできるようにする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	マーケティング戦略	様々なマーケティング戦略と考え方
	18	マーケティング戦略	様々なマーケティング戦略と考え方
	19	マーケティング戦略	様々なマーケティング戦略と考え方
	20	マーケティング理論	消費者の心をつかむマーケティング理論
	21	マーケティング理論	消費者の心をつかむマーケティング理論
	22	マーケティング理論	最新のマーケティング理論
	23	マーケティング理論	最新のマーケティング理論
	24	IT・ソーシャルメディアマーケティング	IT・ソーシャルメディアマーケティング
	25	IT・ソーシャルメディアマーケティング	IT・ソーシャルメディアマーケティング
	26	IT・ソーシャルメディアマーケティング	IT・ソーシャルメディアマーケティング
	27	サービスマーケティングとダイレクトマーケティン	サービスマーケティングとダイレクトマーケティング
	28	サービスマーケティングとダイレクトマーケティン	サービスマーケティングとダイレクトマーケティング
	29	リマーケティング実践	グループワーク「JOBIのマーケティング戦略を考えてプレゼンしよう」
	30	リマーケティング実践	グループワーク
	31	リマーケティング実践	グループワーク　まとめ
	32	リマーケティング実践	プレゼンテーション

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プロジェクトデザインⅡ	指導担当者名	小原　美和
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：○　演習：◎	実習：○	実技：
時間数	54時間	週時間数	3時間
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、最終到達点を目指す。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	企画事前資料他		
授業外学習の方法			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3	企画の全体説明・グループ作り	グループ方針の協議
	4	テーマの選定	グループごとにテーマを決定
	5	企画の計画書づくり	グループごとに企画を練る
	6	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	7	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	8	中間検討	プレゼン後、進捗状況や改善点について話し合う
	9	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	10	発表会①	企画発表
	11	テーマの選定・作業計画	テーマを決定し、グループごとに企画を練る
	12	企画案つくり	プレゼン資料の制作
	13	中間検討	プレゼン後、進捗状況や改善点について話し合う
	14	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	15	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	16	発表会②	企画発表

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プロジェクトデザインⅡ	指導担当者名	小原　美和
実務経験		実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	総合ビジネス科2年 ファイナンスコース
授業方法	講義：○　演習：◎	実習：○	実技：
時間数	54時間	週時間数	3時間
学習到達目標	◇アクティブラーニングを取り入れ、学生が主体となり、最終到達点を目指す。 ・グループワークを通して色々な意見を取り入れ、協力して作業するチームワーク力を養う。 ・世の中のニーズや付加価値に着目し、集客について考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	企画事前資料他		
授業外学習の方法			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	18	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	19	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	20	企画案のまとめ	最終プレゼンに向けて資料の見直しやプレゼン指導を受ける
	21	最終発表会	企画発表
	22	企画・発表の振り返り	これまでの活動を振り返る
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。